

## 10年後のお母さんへの手紙

兵庫県  
神戸市立北須磨小学校五年

三木 巴月

昨日、いとこの家に行くとおばあちゃんが「巴月に手紙やで」と、持ってきてくれました。それは、ほくがまだ9か月で、大分県に住んでいたころ神戸に遊びに来ていて、いとこたちと行った、「21世紀☆みらい体験博」で未来ポストに入れた、10年前にお母さんがほくあてに書いたものでした。

その手紙を受けとった時、こんな手紙があることも知らなかったし、みんなの前であけるのは、もったいない気がして、自分のリュックにすぐしまいました。

そして、夜お母さんといっしょに、あけました。そこには、9か月のほく(2001年8月7日)の様子と、今のほく(2011年)へのメッセージが書いてありました、9か月のほくは、「まんまあ」とさげび、つかまり立ちや、つたい歩きをしている赤ちゃんでした。「このハガキを受け取った巴月くんは、どんな男の子かな? やんちゃやぼうずかな? とにかく毎日元気に走りまわっているんだらうね。これからも元気にのびのび育つていって下さい。お母さんは、2001年も2011年もずーつと、あなたが大好きです。」と書いてあり、泣きそうになりましたが、「お母さん、これ『もうすぐ10才になる4年生の巴月』って書いてあ

るやん。ほく5年生やで!」とびつくりしてお母さんに言いました。「あつ、やっぱりまちがってたね。ポストに入れてから、『まちがってるかも?』って思つて、2年間ぐらいは気にしててん。でも、お母さんらしいやろ。大事な所でまちがつて。」と、涙をふきながら、お母さんは、わらいました。それを聞いてほくは「なんでそんな大事なまちがいを10年間もほつておいたん?」と言いました。するとお母さんは、「まだあるで。巴月はやんちゃぼうずには、育たんかったし、お母さんも、こんなおこるお母さんになるとは思わんかったから、この手紙を見て反省したわ」といって、10年前の当日にとった写真をみせてくれました。「な、こんな小さかったのに、こんなに大きくなつてんから、予想できひんやろ。でも、いい子に育つてくれてうれしいわ。」といってくれました。ほくは大事にされているんだと、うれしくなり、涙が出ました。だからほくも、10年後のお母さんに手紙を書きます。内容はひみつです。

でもほくは、計算まちがいせず、きちんと10年後の50才のお母さんに書くから、楽しみにして下さい。そして、2021年にいっしょにその手紙を読みましよう。